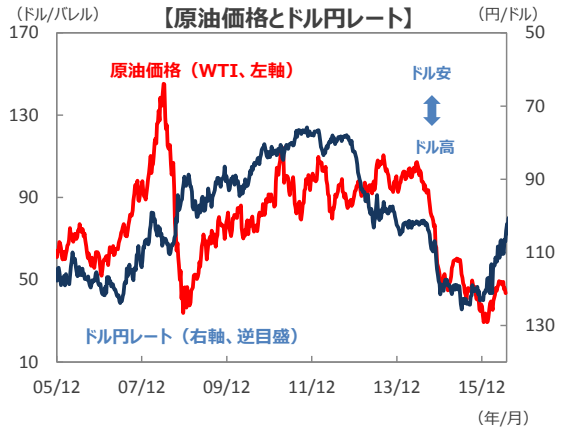


今日のトピック 原油価格の動向

足元は軟調だが下値は限定的と見られる

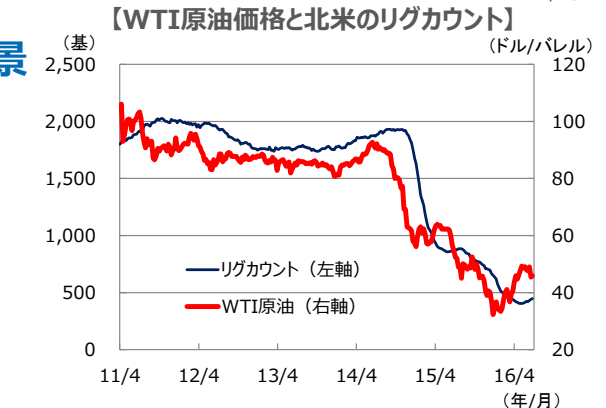
ポイント1 原油は7月に入り軟調な推移 4月以来の安値水準に下落

- 原油価格（WTI、スポット）は、今年2月に1バレルあたり26ドル台の安値を付けた後、上昇基調に転じ、6月には50ドル台を回復するなど堅調に推移してきました。
- しかし、7月に入ってからやや軟調な展開となり、月初の1バレルあたり48.99ドルから、25日には42.38ドルへと下落し、4月下旬の水準で取引されています。



ポイント2 ドル高とリグカウント増が背景 リグカウントは4週連続増加

- 原油在庫が潤沢な中、6月下旬の英国のEU離脱選択以降、ドル安傾向が反転基調にあること、これまで大幅に減少してきた北米のリグカウント（稼働中の石油掘削装置数）が、4週連続で増加に転じていることなどが背景と思われます。
- 北米のリグカウントに関しては、増加傾向に転じたといってもピーク時の2,000基前後から5月末に404基に減少した後、462基まで戻っただけです。現行水準の油価では、現在の北米の原油生産量の減少傾向に歯止めがかかるとは思われません。



(注) データはWTI原油価格、ドル円レートが2005年12月30日～2016年7月22日（週次）。リグカウントは2011年4月22日～2016年7月22日。原油価格はWTIのスポット。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 需給バランスは回復に向かっており下値は限定的か

- IEA（国際エネルギー機関）の直近のレポートによれば、世界の原油需要は伸び率は従来より鈍化するものの、16年、17年ともに1%強増加する見通しです。一方、生産はサウジアラビアなどを筆頭にOPEC諸国の増産があるものの、非OPEC諸国の減産を予想しています。
- 非OPEC諸国の減産は、米国のシェールオイルなど高コストの油田の減産が進行するためです。この結果、これまで積み上がる一方だった原油及び石油製品の在庫は、早ければ7-9月期にも減少に転じる可能性があります。このため、原油価格の下値は限定的ではないかと思われます。

ここもチェック! 2016年 6月29日 最近の指標から見る米国経済（2016年6月）
2016年 6月15日 「OPEC月報」、需給正常化を予想（グローバル）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。